



関西いのちの電話



「緋寒桜」 撮影：増田 正



私の中の“いのちの電話”

関西いのちの電話 評議員

日本体育協会(体操上級指導員) 佐藤 雅子

冷たい朝、ゴミ出しをするために門を出ると、目の前をスーッと通り過ぎる人がいました。その人は振り返って「おはようございます」と小さな声で言ったので、顔を向けると中学生の制服を着た少女でした。

私が電話相談員としてスタートして間もない頃、地域の福祉関係の仕事を引き受けていました。主な仕事の一つは見守り活動でした。

当時、阪神大震災対策で建った復興住宅とその周辺地域が私の担当でした。その朝出会った彼女は当時幼稚園児で、小学生の兄が居ました。複雑な家庭環境で母親は深夜まで働いていて、殆ど二人きりで一日中を過ごしていました。少女は標準体重にも満たず、小学生の兄の登校時間は給食前というありさまでした。私は幼稚園や小学校等の関係者の支援を受けながら、見守り活動は兎に角必死の毎日でした。精一杯心を尽くしながらも、未だ何か出来たのではないかという思いを持ったまま、私の六年間の見守り活動は終わりました。

震災によって、住居はもちろん沢山の大切なものを失った方達、特に高齢の方達は転居によって新しい生活を手にしつつも孤独の日々が待っていたのも事実で

した。

見守り活動で、目にする孤独死、精神の病の悪化などの問題は、ふと気付くと、“いのちの電話”でつながる方達の訴えと重なるのでした。どうしたら良いのか思い悩むことも多々ありましたが、当時相談員として受けた研修や相談員同士の交流が支えになり、何とか向き合うことが出来ました。

不安と諦めを抱きながら、懸命に生きようとしている方達がどう感じていらっしやっただかは分かりませんが、中学生になった少女が挨拶をしてくれたことや重い精神の病で一度は入院した老人も、今では毎朝リュックを背に元気に外出する姿を見掛けて、そんな様子に安堵すると共に、どんな形であっても私が今も誰かのために、自分に何が出来るかと思いながら過ごしているのは、見守り活動の中で出会ったあの少女や老人が与えてくれた何かだと感じています。そして、かつて相談員として“いのちの電話”に係わり、多くの相談員の方達の真摯な姿勢に胸を打たれ、支えられたことが私の真中であって、貴重な経験を続けることが出来ました。

関西いのちの電話 相談電話 (24時間365日) ☎06-6309-1121
自殺予防いのちの電話 毎月10日 午前8:00～翌日午前8:00 ☎0120-738-556

関西いのちの電話 第34回公開講座

いのちの感受性

～あなたはひとりじゃない～

日時：2016年1月30日(土)

場所：大阪YMCA会館 2Fホール

講師

落合恵子氏

作家・クレヨンハウス主宰



舞台上にさっそうと現れた落合さん、ゆったりとした衣装、そして怒髪天を衝く髪型、風邪の影響で頬が腫れ、口が回らないとおっしゃっていたが、なんのなんの、ナチュラルでパワフルそのままのお姿であった。いのちの重みを知り、いのちを粗末にするものと真正面から闘う、心優しき71才の女性。

60代の参加者が最も多い会場で、20代から80代の方に問いかける。「“違い”が切り捨ての理由になり、差別になり、普通という言葉でうなずく社会。原発しかり、沖縄しかり、戦争しかり。私の行動は燃え盛る森に水を落とすハチドリの一しずくかもしれない、でも私は私のできることをやる。人が自分を信じ、人が他者を信じる瞬間を捨ててしまったら生きている甲斐はない。」

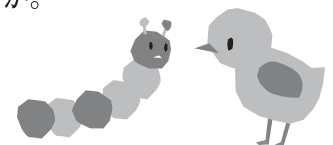
さらにカミュの言葉を引用され、クレヨンハウスの理念はいのちの電話の理念にも通じると話された。「私の後ろを歩かないでください、私はあなたをリードすることはできません。私の前を歩かないでください。私はあなたに従うことはできません。私の横を歩いてください。友達でいましょう。」ただひたすら寄り添ってくれる人がいることで人は立ち直っていける。人と人がつながるためには、ほんの僅かばかりの想像力が必要なのだと。

そして子どもたち。どんな大人が周囲にいるかということで、子どもの人生の景色は変わる。子どもにとって大人は何？誰だってしんどいんだよね、でもいかに自分を見つめられるか。私は花を育てるのが好き、次の季節を思いつつ花の種を蒔く。子どもたちも同じ。この地球が終わると知っても私は種をまく、人を信じたい…

それから、方言に造詣の深い川崎洋氏の詩「抹殺」を紹介され、戦争がいかに未来の数えきれないいのちを抹殺するかを話された。「福島、沖縄、DV、虐待、TPP、東京オリンピック競技場で無駄につかわれた巨額のお金、この国の経済構造…弱い命は素通りしてその上を歩いて行けばよいという風潮。いのちに対してセンシティブでない社会に、蠅螂の斧であっても声を上げたい、書き続けたい。」と力強くメッセージを送られた。

最後に、「歌が歌えるよ！」の子どもの声に触発されて作ったCD絵本「空より高く」の歌を披露された。この本の収益は福島の子どもたちのために使われるという。そして「弱い自分を持ちながら少しでも柔らかな強さを身に着け、いのちから考え、いのちから問いかけることを。いのちから始まりいのちを深めることを。」と締めくくられた。

これらはまさに、いのちの電話の希求していることである。落合さんの話に力を得た相談員も多かったであろうし、参加者の方も、自分の生き方、社会のありようを見つめるための提言になったのではと思う。気持ちの良いほど見事でストレートな落合さんの姿勢に、美しさを感じたのは、私だけではなくたのではないだろうか。



エルダーものがたり II

子どものころのことを思い出すと、数えきれない程、沢山のことが浮かんできます。ここで記憶に強く残っている、私の性格形成に影響を与えたと思うものを書きます。

小学校での影響は大きかったと思います。全体的に言って、楽しくなかった。しかし大きな学びはできた。何が起きてそれを受け入れて、自分なりに進むことでした。

アメリカの学校の学年は9月から5月までです。私は12月生まれなので、学年が始まる9月に、私が住んでいた8軒の集落で、学校に行かないのは私一人となった。親が学校を説得して、私は一週間遅れて、周りの仲間と一緒に学校に行けるようになった。学校に入ることはとても楽しみにしていましたが、初日は思いのほか、大変でした。

小学1年の1日目に、新記録を作ったと思う。先生に叩かれる罰を受けた。私は遅れた1週間の間に他のみんながやっていたことを知らなかった。先生は毎日、生徒の鉛筆を機械で削っていた。一人ひとりに、「鉛筆を削って欲しいか」と聞いたが、私はこれまで自分のナイフで削ったことしかなかったの、なんのことも分からなかった。紙がなかったから「机に線を書いてみる」と言ったら、「ダメ！」と怒鳴った。私は「もうやった」と正直に言ったら、「前に来なさい、手を出しなさい」と言われて木の物差しで強く手を叩かれた。痛かった。なにが悪かったのか分からなかったが、絶対に泣かないと思った。

クラスは同じ部屋で二つに分かれていた。よくできる「青い鳥」とちょっと遅い「赤い鳥」。もちろん私は「赤い鳥」に入った。その二週間後「青い鳥」に上がって行った。しかし、先生を警戒することを覚えて行った。

私は非常に引き込む性格だった。その理由のひとつは、父が酔っぱらって家に帰る時、学校の近くを通るようになっていた。私は時々父を迎えにいて、仲間に見られた。とにかく、恥ずかしくて、気が小さかった。1年、2年と、一人で過ごした時間は多かった。みんなが遊んでいる時、私は運動場の端にある木を見つけて、よくその木に寄りかかった。今でもその木の場所と形が見えます。皆がふざけたり、走ったりしているのを見て、私はどうして入らないのか、どうして私はこんなに気が小さいのか、と思いつめぐらした。淋しかったというよりも、たくさんのことを見たり、考えたりしました。

その反面、成績はトップでした。授業中、当たらないように顔を隠したが、当たったら必ず答えた。しかし2年の終わりごろ、苦しいことが起こった。急にどもるようになった。どうしても言葉はきれいに出来なかった。3年生の秋から私のクラスを持つ女の先生は、「この子を教えることはできない」と校長に断ったことを親から聞いた。自分はダメな子だと思った。そして益々顔を隠すようにした。

救いが、その頃、近所に引っ越してきた、一人のおばさんがいた。彼女は母と親しくなったが、私に「ちょっとあそびに来ない？」と誘った。お家の裏口の階段に座ったことをよく覚えている。私の好きな野

球選手を聞いたりして、色々の雑談をした。私が言葉に詰まると、優しい顔をして待ってくれました。「言いたい音を頭の中で聞いて、ゆっくりでいいから話して見て」と言った。夏休みは一杯時間があつたので、少しずつ、話しができるようになった。数年後、心理学を勉強していて、私の一才ごろから親が私の左ききの傾向を右に変えたことを聞いて、なるほどと思った。何故ならば、左ききを無理やりに右ききに変えることによって、どもることもあると分かった。それでも、親には何も言わなかった。私は既に乗り越えてきたから。

しかし3年生の時に、もうひとつの大きいショックなことが起きた。字を書く練習をする時に、○を連続に書いて、横に並べて、きれいな金属のばねのように書くはずだったが、私はどうしてもきれいに書けなかった。親はちょっと頑張って、柔らかい鉛筆を買ってくれた。書きやすくて、真剣に練習していた、しかし中々きれいにできなかった。ある日、書く練習の授業中、先生が回って来て、私の前に座っていた先生好みの男の子が固い鉛筆を使っているのを見て、私の大切な鉛筆を黙って取り上げて、「鉛筆を交換しなさい」と言った。私はびっくりした！言葉が出なかった。先生を殴りたかった。親が私に買ってくれた大事な鉛筆！その時以来、先生というものは私の敵だと決めた。教えていることは習いますが、人間として信頼しない。今、あのクラスで覚えている人の名前は、私の鉛筆をもらった男の子、エドウィンと、男どもの憧れの女の子、マリオンだけ。

でも、「先生」に対する考えが少し変わることが起こった。私は遊びの時間に、いつも、あの木に寄り掛かっていた。他の遊びは一緒にやらなかったが、野球をする時だけは入った。父のお陰で自信はあったから。ある日、私は大きいヒットを打って、ボールは道を越えて、雑木林に深く入った。みんなで探したが、どうしても見付からなかった。部屋に戻るベルが鳴り、みんなが私を校長室に引っ張って行って、私がボールをなくしたことを訴えた。校長先生は話を聞いて、私の肩をたたいて、明るい声で、「大きいホームランを打ったね。いいバッティングだった！まあ、ボールはなんとかするから、早く部屋に戻りなさい」と言った。こういう素晴らしい先生も居るね、さすが校長先生だと思った。「先生」と呼ばれている人にはこんなにも違いがあるのかと思った。

「人間は分からない。どうしてこんなに違う!？」父、母、近所のおばさん、先生方、そして気の小さいこの私。「人間はわからない!」と9才ながら考え続けました。

大阪女学院短期大学名誉教授 ウィリアム・エルダー



6歳の頃の写真
アメリカ・アーカンソー州にて

あたたかいご支援ありがとうございます

2015年11月1日～2016年2月29日までに、次の方々から社会福祉法人関西いのちの電話への寄付またはバザーなどへのご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。(五十音順・敬称略)

【個人】

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 東 良三 | 大塚 昭男 | 桑田 宏子 | 幣原 直子 | 田中 貴子 | 西沢 嘉祐 | 三浦 直之 |
| 荒木 寛子 | 大塚 伸二 | 薫 風 会 | 柴峠 隆士 | 田中 豊子 | 新田 精一 | 宮武 明子 |
| 石沢れい子 | 大津 久直 | 小泉 達子 | 島田 恒 | 田中 信子 | 服部 幸子 | 宗像千代子 |
| 石原 紘 | 大畑 了子 | 呉 美憲 | 東海林恭子 | 玉置恵津子 | 濱中 宏子 | 村本 延子 |
| 伊東 俊 | 岡崎 信恵 | 古賀 君子 | 笑福亭松枝 | 玉田 淑江 | 日野 哲雄 | 森田 和典 |
| 伊藤 誠一 | 小頭 誠 | 小林 文子 | 白方 誠弥 | 辻森 寿子 | 平栗 勲 | 八木 春作 |
| 井原 季子 | 岡本 勝 | 小林 昌則 | 菅谷 道子 | 妻鹿 泰子 | 廣野 智子 | 山内 信三 |
| 入江 和廣 | 小川 弘二 | 小村 典子 | 杉浦美智子 | 道免 逸子 | 福島ひろみ | 山下 政義 |
| 入江 保夫 | 落合 雅子 | 近藤 英子 | 杉浦眞喜子 | 所 公子 | 藤井 載樹 | 山本 雅司 |
| 岩坂 正雄 | 片山 巖 | 酒井 俊一 | 杉山 邦子 | 中崎 正樹 | 藤田 淑雄 | 湯尾 弘司 |
| 岩田 慶子 | 加藤 昌子 | 佐久間充正 | 高尾 有 | 中谷 治 | 藤原 正巳 | 渡辺藤市郎 |
| 宇野 徹 | 岸本 彰五 | 佐々木良子 | 竹花 正子 | 中野 桂子 | 古坂 啓子 | 渡辺 宏子 |
| 大坂 雅巳 | 北市 恵子 | 佐治美知子 | 竹村 武男 | 中野 爲夫 | 松野 五郎 | 匿名 3人 |
| 大沢 幸子 | 北之坊皓司 | 左藤 章 | 竜田美枝子 | 並川 昌子 | 真野 和子 | |

【団体】

| | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
| 援助マリア修道会(西宮) | 聖母奉献修道会 | 日本基督教団 大阪東十三教会女性の会 | 日本バプテスト宣教師 池田キリスト教会 |
| 援助マリア修道会(福山) | 聖ヨゼフ宣教師修道女会 眞面修道院 | 日本基督教団 香里教会 | 日本バプテスト同盟 北豊中教会 |
| 大阪YMCA学院 | 高橋西梅田クリニック | 日本基督教団 聖峰教会 | 能勢ライオンズクラブ |
| 大阪YWCA | 田中医院 | 日本基督教団 千里丘教会 | 姫路聖マリア病院 |
| 小林聖心女子学院 中高奉仕部 | 日本イエスキリスト教団 垂水教会 | 日本基督教団 玉出教会 | 融通念佛宗 法蔵寺 |
| カトリック神戸中央教会 | 日本カトリック教会 玉造教会 | 日本基督教団 塚口教会 | 正岡クリニック |
| カトリック鈴蘭台教会 | 日本キリスト教会 大阪北教会社年会 | 日本基督教団 天満教会 | まつしま診療所 |
| 河電産業株式会社 | 日本キリスト教会 大阪北教会婦人会 | 日本基督教団 豊中教会 | (株)マツヤ |
| 関西学院 宗教活動委員会 | 日本キリスト教会 西宮中央教会 | 日本基督教団 東梅田教会 | 大阪帝塚山ライオンズクラブ |
| 合資会社 寿屋 | 日本基督教団 大阪教会 婦人会 | 日本基督教団 南大阪教会 | レデンブトリスチン修道院 |
| ユニシ株式会社 | 日本基督教団 池田五月山教会 | 日本基督教団 武庫之荘教会 | 六甲中学校・高等学校 |
| 在日大韓基督教会京都教会向上社保育園 | 日本基督教団 石橋教会 婦人会 | 日本聖公会 大阪教区婦人会 | YMCAサンホーム |
| 大阪信愛修道院 | 日本基督教団 大阪教会 | 日本聖公会 大阪聖愛教会 | 渡辺クリニック |
| 聖バルナバ病院(サマリヤ会) | 日本基督教団 大阪東十三教会ひつじ会 | 日本ナザレン教団 大阪桃谷教会 | |

●他に相談員100名と相談員有志・実習生、理事・評議員が支えています。

募金をお願いします

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として相談活動をおこなっています。皆さまのご支援が、電話をつなぎ「いのち」をつなげます。いのちの電話の活動を支えてください。

お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上優遇されます。

口座名義：社会福祉法人関西いのちの電話

口座番号：ゆうちょ銀行 00990-3-68480

：三井住友銀行 十三支店(普) 998829

2015年度歳末募金のご報告とお礼

関西いのちの電話事業のために、ご支援・援助を賜りありがとうございます。

さて、昨年12月より、歳末募金を皆さまにお願いしましたところ、個人献金(127件)994,647円、団体献金(31件)495,000円、総額(158件)1,489,647円の献金をいただきました。(3月22日現在)

ここに、結果をご報告し、ご協力いただきました皆さまにお礼申し上げる次第です。どうぞ今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。(財務委員会)

50期相談員認定式・永年感謝式、おめでとうございます

暖かい春の日差しに満ちた3月12日、50期認定式・永年感謝式が行われました。新しく相談員に仲間入りした50期25名に認定証が、活動10年の方19名、20年の方6名、30年の方2名には感謝状が贈られました。50期の皆さんのフレッシュな意欲と熱意に大きな力を得た思いがし、また、長年相談員を続けてきた方々の思いの深さに感銘を受けました。参加者みなでお祝いするとともに、心新たにいのちの電話の活動の意義を考えさせられる式となりました。



また49期の方が心を込めて準備してくださった祝賀パーティは、今年卒寿を迎えられるエルダー先生の乾杯の音頭で始まり、KAINO劇団による朗読劇や歌が披露され、華やかに楽しく心温まる会となりました。

感謝式を迎えた方々から4人の方に「今の思い」を語っていただきました。

継続することで得たもの

この活動との出会いは「ボランティア募集」の小さな新聞記事。電話相談というよりは夕刊の片隅のボランティアの文字の印象が強く、比較的軽い気持ちで応募した。人生の変遷の中、ここでの活動だけは一貫して続けてきた。継続の理由は何かと問われれば、関西いのちの電話の諸先輩や仲間との出会いはもちろん、相談電話の向こう側の相談者との出会いにつくる。

相談者の鏡になろうと聴いているうちに、いつの間にか相談者が鏡になってくれていることにも気付いた。自分の力だけではどうしても抜けなかった肩の力が、相談者との関わりの中で抜けるようになり、生き易くなった。

長く活動を続けていくと、頭で分かったことが実感として分かってくる。電話の向こうの人たちにも支えられた30年だった。

21期・J.M.さん

自分との約束

相談員認定からも早20年、通過点です。私のこの活動の原点は「自分との約束」。これを、ただ継続しているだけです。今なら言えます、「力まず肩の力を抜いて自然体で」と。

20何年前に大阪府社会福祉協議会へ出向いた時、一枚の黄色の薄い葉書位のチラシが私の目に留まりました。それが、いのちの電話相談員募集案内。そこにはこう書いてありました。「自分への気付き、よき聴き手への訓練」と。人の話を聴かない私には、正に衝撃の見出しでした。いのちの電話の名前さえ知らなかった私は、早速書店に立ち寄り、この活動について調べました。そして申込書取り寄せから応募へと。

そして今、保存しているあの時の申込書の希望理由を見ました。「この生かされている命有る限りひとの役に立ちたい、その思いがこの講座を希望した理由です」と書いていました。

原点を忘れず、体力・気力の続く限り、これからも「自分との約束」を守り続けます。皆様も出来ます！

30期・(寂聴居士) J.Y.さん

30年間継続できたことに感謝を込めて

出張の多い、多忙な仕事をしながら活動を続けてきた。この活動に応募したきっかけは、仕事の中の対人関係で、話を聴いてほしい人が多いことに気付かされ、「聴く」ということに興味を持ったからだった。

30年続けてこられたのは、仕事関係では得られない利害関係のない仲間や、俗世間から離れた静謐なこの場所に心の拠り所を見つけたからだと思う。

ある寒い日の朝、深夜の電話相談を終え、海外出張に向かう私に、先輩相談員が掛けてくれた、身体をいたわる温かい言葉がずっと心に残っている。

あらためて、関西いのちの電話の諸先輩や仲間をはじめ、30年見守ってくれた家族に感謝したい。

21期・M.K.さん

いのちの電話で学ぶ喜び

学び続けられることが嬉しかった第41期認定式から十年を迎えましたが、現在も養成期間と同様に「自分自身への気づき」に驚き、戸惑い、落胆する私があります。自分の内面を見つめ、愚かさや限界を認めるのはなかなか苦しい作業です。修行ですね。

先日引退された人形浄瑠璃の人間国宝、豊竹嶋大夫さんの「修行に果てはない」、「浄瑠璃はつらい思い出ばかり、つらいのに大好きなんです」という言葉が胸に響きました。私は相談員活動が好き。修行の過程で得た先生方や先輩方、仲間たち、そして電話をかけてくる方々との出会いや繋がりが、いのちの電話で育てて頂ける心地よさは私の宝物です。この宝物との出会いを導いてくれた友、活動を見守ってくれた家族に感謝したい。

模範的な相談員ではない私ですが、「果てのない修行」を続けてゆきたいと思っています。いのちの電話で学び、育ち、成長することが社会に役立つことを願いながら。

41期・Y.K.さん



問いかけることと共感 1 「謙虚な問いかけを」

電話相談の場面で、共感しやすいかけ手と共感しにくいかけ手があると、相談員からよく聞きます。どんな人かとたずねてみると、自分の経験と似た内容すなわち過去に自分も似たような体験をした、同じような悩みを抱えている、同じような問題や課題に取り組んだことがあるという相手の話はよく聞ける。しかし、自分の経験していなかった生活と生き方や考え方は、自分とは違うということが傾聴の邪魔をして、理解はおろか共感にまでいたらないと。

たしかに、自分の経験と似た相手は、理解しやすいと思うのです。しかし、落とし穴も潜んでいるようです。なぜならば、自分の経験に重ねて理解をして早わかりをしてしまう、すぐに自分の経験をもとに助言をしてしまう危険性をはらんでいるのです。

その反面、理解や共感しにくい相手のほうが、どんな人なのだろうか？どんな状況に置かれていて、

どのような問題を持ち、どのような感情に翻弄されているのだろうか？などに関心を持つ手がかりが与えられるのです。

しかし、多くの場合は、自分の経験とはかけ離れているので、理解は無理、こんな話は苦手だからと、聞き手はこころの窓を閉めたくなるのです。

このような類似性を越えようとする「傾聴」が求められます。そのためには「謙虚な問いかけ」をして、相手の経験を話してもらい、その気持ちをしっかりと傾聴する、あるいは教を乞うような姿勢で、自分とは異なった人生や生き方を受け取っていく。そこから共感が生まれるのではないのでしょうか。

経験の類似性・同質性を求めると、当面の信頼関係（ラポール）が築きやすく、理解や共感が深まると過信をしないように、肝に銘じておく必要があると、私は思っています。

そして、このような過信に流されないためには、客観的な自己理解が必要だと思えます。

元大阪女学院大学/短大講師 長尾文雄

こんなこともやりました！ありました！

2015年

- ・12月8日 枚方市社会福祉協議会ゲートキーパー養成講座
- ・12月17日 奈良いのちの電話事務局長来局、情報交換

2016年

- ・1月12日 大阪YMCA学院高等学校 講座「共生社会」講義
- ・1月14日 大阪府警察本部 被害者支援会議
- ・1月25日 いのちの電話 近畿・東海ブロック会議
- ・2月3日 第2回 公開セミナー&ボランティア説明会
- ・2月4日 神戸いのちの電話来局、情報交換
- ・3月14日 大阪市精神保健福祉審議会自殺防止対策部会会議
- ・3月15日 和歌山いのちの電話来局、情報交換
- ・3月17日 大阪Ⅰ大阪Ⅱソニタクラブ共催合同例会講演
- ・3月23日 大阪帝塚山ロータリークラブ 卓話

編集後記

今年の7月号も例年通り認定式と永年感謝式に関する記事が掲載され、「継続」と「変化」、「出会い」と「感謝」が綴られている。

認定者は新たな出会いと何らかの変化を求めて“いのちの電話”に関わり、30・20・10年の勤続者は続けることで、何らかの変化と出会いに遭遇、感謝の言葉を記している。

新事務局長就任1年経過。小さな「変化」が生まれている。24時間・365日切れ目無く電話相談を続けている活動団体に、新たに認定された50期生25名の相談員が何らかの変化を持ち込むことを期待。

(H.S)

ボラデミー賞を受賞しました！

大阪市ボランティア市民活動センターが主催する「ボランティア団体・NPOの魅力を伝えるCM制作講座」に参加しました。これは映像の専門家の指導のもと、新しい仲間や支援を得るために、オンリーワンのCMを制作する8回の連続講座です。



*写真はCMの一場面です。

制作は四苦八苦の連続でしたが、サポーターの方たちの協力により、相談員募集のCMが完成し、2月13日の上映会にて、見事ボラデミー賞を受賞しました。このCMはYouTube、あるいは、関西いのちの電話のホームページ(<http://kaindnew.com/>)から見るすることができます。

電話相談受信状況 (2015年~2016年)

| 受信月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 受信件数 | 1,813件 | 1,900件 | 1,866件 | 1,792件 |
| 相談員数(延) | 498人 | 499人 | 488人 | 468人 |

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局：〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72

TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180

発行人：李 清一 編集：広報委員会

ホームページ <http://www.kaindnew.com>